

⑤ 大学との連携・安全・福祉推進プロジェクト

— 大学との連携、安全・安心で生きがいのもてる地域づくり —

●（主として）地元が取り組むメニュー

- 自主防災組織の充実
- 生きがいづくり活動の実施
- 子ども・高齢者の見守り など

●地元と行政等（協働）が取り組むメニュー

◇広島市立大学・広島修道大学と地域の連携

- ・かぐや姫プロジェクト
- ・まちづくりプレゼンコンテスト
- ・芸術作品の設置（西風新都中央線の沿道など）…前記「大塚シンボル通りプロジェクト」を参照

◇防犯灯の設置・維持管理

◇下水道の整備の促進 など

<かぐや姫プロジェクト（広島市立大学と地域との連携）>



<まちづくりプレゼンコンテスト（広島修道大学の学生によるアイデア提案）>

2008 年のアイデア

P l a n 1 : ツインタワーのイルミネーションを点灯せよ！

P l a n 2 : 地域の竹食材を使った“竹もち祭”

P l a n 3 : 西風新都 道の駅

P l a n 4 : こども竹馬・農業塾

P l a n 5 : “星降るまち” 西風新都

あさみなみ芸術化構想 2010 ～大学と地域と行政の連携～

※以下、「あさみなみ芸術家構想 2010」の資料から抜粋

目 的

広島市立大学と、本学が位置する安佐南区の住民、行政が協力して、住民参加型の芸術活動や本学で制作された作品展示を通して、地域の芸術化を推進し、独創的で活力ある地域環境を創造する。

併せて、常に変化する現代社会の中であって、現代の生活に必用な芸術のあり方を考える学外の実践的な芸術教育・研究の場とし、地域、行政の協力を得ながら若い芸術家を育成することを目的とする。

概 要

「あさみなみ芸術化構想 2010」は以下の5項目の事業によって構成される。

(1) 「アストラムラインー高速4号入口線」芸術計画第一期事業 2010

○大型の石彫作品2基の設置

※備考：2011年以降に第二期事業として、中型の立体作品5基程度を設置する予定

(2) 「大塚かぐや姫プロジェクト 2010」

○第一期事業ー高速4号線入口近くにある、竹によって造形された納屋「大塚かぐや姫レジデンス」の改修

○第二期事業ーデザイン工芸1年40名、彫刻専攻1年10名、地域住民参加による、竹林の間伐・整備、竹を素材とした作品制作

(3) 「安佐南区役所」芸術計画

○工芸作品2基、中型彫刻作品3基の設置

(4) 「学内・多目的広場」芸術計画

○中型の彫刻作品の設置

(5) 学内、近郊設置作品マップの作成

⑥ 山・川の再生とホタルの里づくり プロジェクト

— 大塚川・幸神川・西の谷川・里山などの活用 —

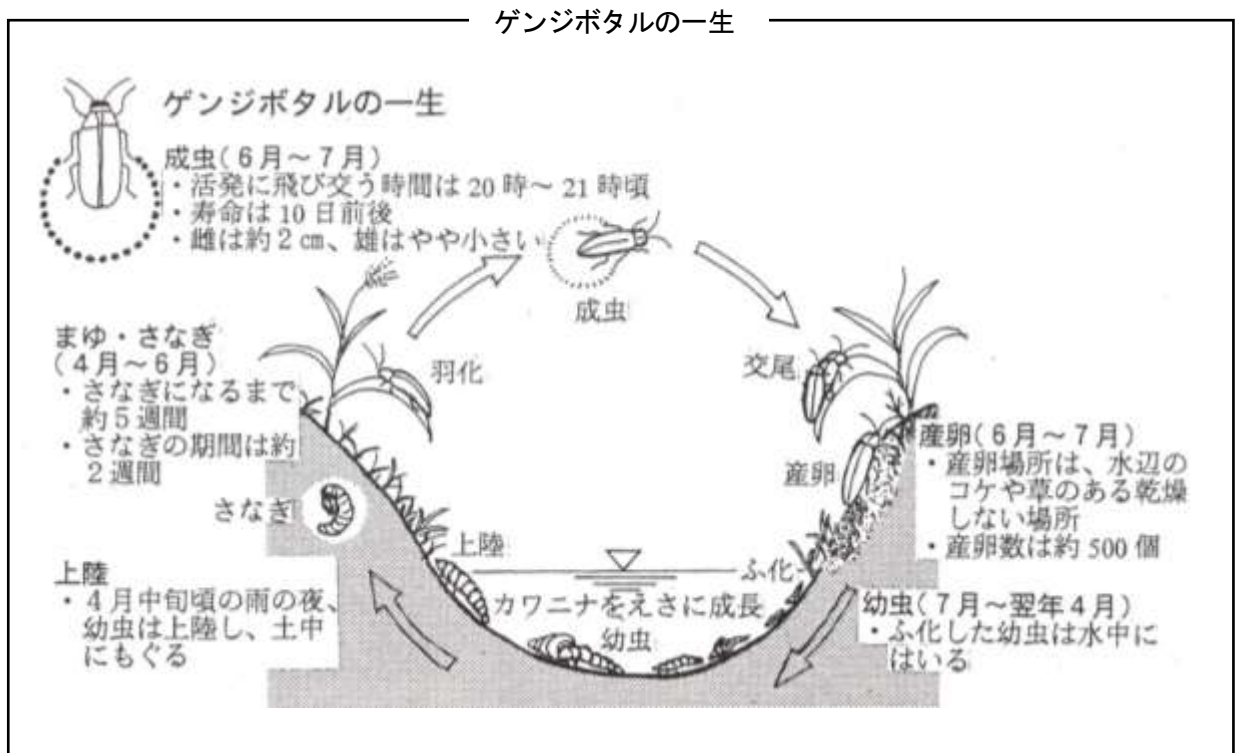
●地元と行政等（協働）が取り組むメニュー

- ◇ホタルの里づくり（幼虫の放流など）
- ◇河川の改修・環境保全等
- ◇生き物観察会などの開催
- ◇河川の清掃美化（美しい川づくり）

●（主として）行政等が取り組むメニュー

- 生き物の棲める河川環境づくり

など



<一の坂川（山口市）>



山口市の市街地を流れる一の坂川は、ホタルが生息しやすいように護岸などが整備されています。6月ごろに国の天然記念物に指定されているゲンジボタルが乱舞します。春はサクラの名所にもなっています（この写真）。

<大塚川>



<休耕田を利用した生き物のすみ池（広島県安芸高田市）>



<暮らし・遊びの場としての川（鳥取県智頭町）>



⑦ かぐや姫 アーツ・アンド・クラフツ プロジェクト

― 竹のアート・ものづくり “アーツ・アンド・クラフツ” のまち・大塚 ―

●（主として）地元が取り組むメニュー

○竹の特産品づくり（竹炭や竹細工など）、食との組合せ

○竹を使ったものづくりを楽しむ、暮らしに生かす など

●地元と行政等（協働）が取り組むメニュー

◇竹のアートイベント（かぐや姫プロジェクトなど）

◇竹をはじめ地域の素材・文化を生かしたものづくり

（生きがい、交流、展示・発表、販売） など

<かぐや姫プロジェクトにおける竹の活用>



＜竹を使った様々なモノや活動＞



竹炭、竹かご（竹原市：竹製品づくりを学び、今では特産品に成長。竹細工を体験・学習する場も確保）



竹の酒器（コップは必要だが、素人でも魅力的な製品が出来る）
竹製品と他のものとの組合せで魅力アップ。例えば、青竹とうふ、竹汲みとうふ、青竹の酒。ささの酒）



「西条酒まつり」での竹を使った取組（東広島市）

左・中：巨大な竹筒の酒入れ。上から酒を流し込み、下には水栓を付け、蛇口から酒が出る。飲むのは竹のコップ（ぐいのみ）。
右：竹べらにのせた焼き味噌。数千本が訪れた人々の口に。味噌はイリコ（？）などで味付けがされていた。

⑧ 大塚物語・探訪プロジェクト

— 大塚の歴史・地域資源の掘り起こしと活用 —

●（主として）地元が取り組むメニュー

- 歴史的・文化的景観の保存・活用（鎮守の森づくりなど、神社や田園景観などを守り、生かす）
- 大塚地域誌などの作成（行政等の支援の可能性も：下記）
- 歴史文化の聞き取り・記録
- 案内表示板の設置（行政等の支援の可能性も：下記）
- 探訪イベントの開催 など

●地元と行政等（協働）が取り組むメニュー

- ◇大塚地域誌などの作成（公民館活動などでの作成）
- ◇案内表示板の設置（助成・支援制度の活用による作成）
- ◇アストラムラインの橋脚を利用した壁画の作成
- ◇大塚の歴史文化を伝える歴史的資源の収集・展示 など

<石内のむかしの話（広島市佐伯区）>

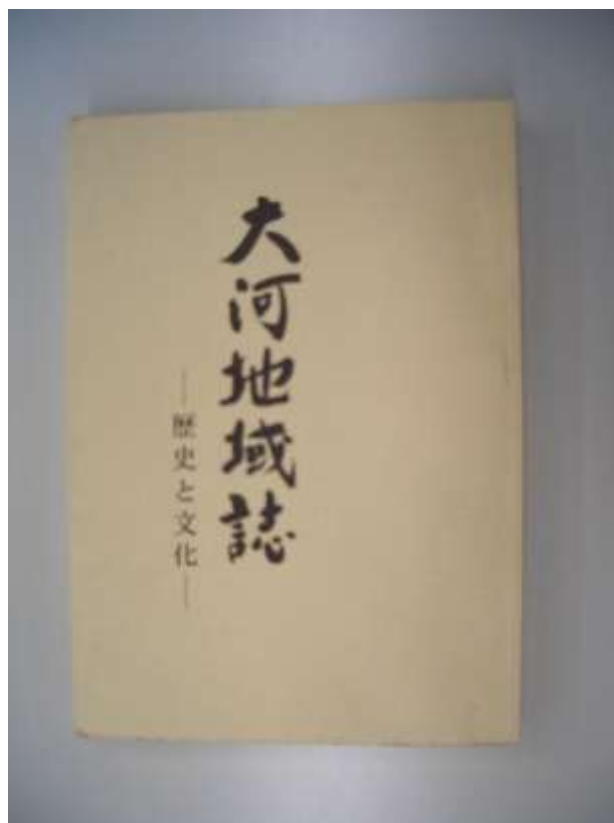


石内地区では、住民参加でつくった「石内まちづくり構想」で提案されている取組（地域誌づくりなど）が具体化されています。公民館活動を通じて住民が地域に残されている話を集め、スケッチや写真を取り入れ、「石内のむかしの話」として冊子に取りまとめられています。

＜地域の食文化や歴史を冊子や本にまとめた例（広島市南区）＞



大河公民館では、かつて海に面し、海苔の一大産地であった地域の郷土料理を、住民によって再現してもらい、レシピなどを冊子としてまとめています。



大河地域まちづくり協議会では、チームをつくって地域の歴史文化を調査し、「大河地域誌」としてまとめています。

＜大河小学校郷土資料室（広島市南区）＞



大河小学校では、空き教室を活用し、地域の民俗文化財などを展示しています。特に、この地域は、かつて海苔の一大産地であったことから、海苔の生産に関する一連の流れを知ることができます。

＜説明板などを住民参加で整備（広島市南区）＞

広島市南区の元宇品におけるアース・ミュージアムの取組は、南区魅力発見委員会が作成した「マップ」が端緒となったといえます。

そのマップを利用して、地域を訪ねてもらうためには、道標も必要ということで「南区案内表示板等整備部会」を設立し、まずスタートとして元宇品を対象とすることになりました。

元宇品での案内表示板等に関わる取組は、平成 16 年度からスタートし、多様な参加によって進めてきました。そして、この活動が「アース・ミュージアム」につながりました。

